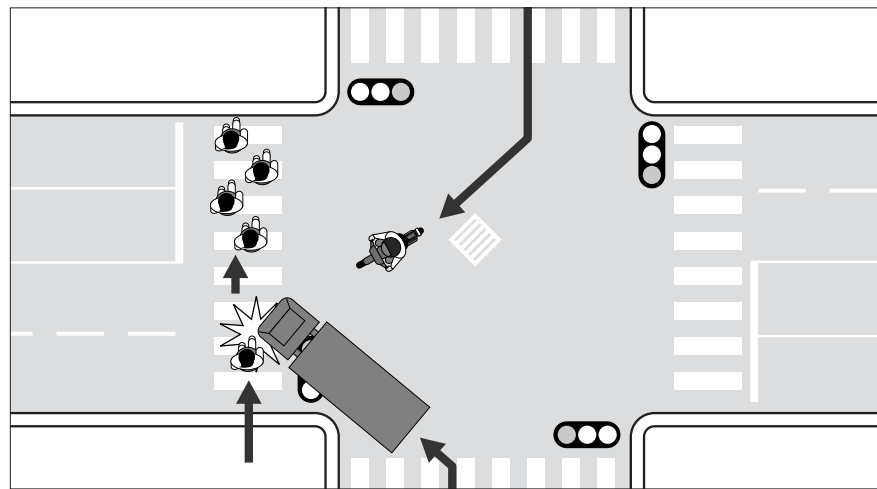


職場における交通安全指導

大型貨物車が左折時に高齢歩行者に衝突



■事故の概要

- 発生状況
日時：平成22年1月某日 午後2時30分頃
天候：曇り
- 道路状況
片側1車線の市道と片側2車線の国道が交わる信号機のある交差点
- 事故の当事者
運転者 A (大型貨物車)：52歳、男性
被害者 B (歩行者)：71歳、女性
- 被害状況
A：損害なし
B：右下肢骨折、頭部打撲等(全治9か月)

事故状況

Aは、トラックの乗務経験25年のベテランドライバーで、社内でも信頼されリーダー的な立場にあった。

当日は、自動車部品を関西方面へ搬送するため、工場で部品の積み込みを行ったが、積み込みは順調に進み、出発予定時間より1時間程早く終了した。

工場を出発したAは、この先長距離の運転となるが、積み込みが予定よりも早く終わったこと、いつも通り慣れたルートであること、道路が比較

的閑散としていたことから気分よく運転していた。

約2キロメートル走行し事故地点となった交差点に差し掛かったが、信号が赤信号であったため、停止線の手前で停止した。

その時、左側の歩道上で談笑しながら信号待ちをしている5、6人の女性達を認めた。

信号が青に変わりAは左折を始めたが、女性達が横断歩道を一齐に左から右へ渡り始めたので、横断歩道手前で一旦停止していると、対向車線から交差点を右折するために進行してきた自動二輪車が、Aの大型貨物車が発進する前に通過するような勢いで交差点の中央部を越えて近づいて来たのでその動向を注視した。

二輪車が交差点内で一旦停止したことを認めたAは、二輪車が発進する前に左折しようと考え、横断歩道上に視線を戻すと、数人の女性達が自車の前を通り過ぎたことから、他に横断者はいないものと判断し発進したところ、突然左前輪付近に衝撃を受け、「ファー」という悲鳴が聞こえた。

Aは急停車し降車して確認すると、頭部から出血した女性Bが横断歩道上で仰向けに倒れていた。

この事故の原因は、Aが左折する際に左方の安全確認を怠ったことにあるが、横断歩道上を渡っている数人の女性を認めた時、先ほど信号待ちしていた女性達は全員が自車前を通り過ぎ渡って行

っただろう、他には歩行者はいないだろう、との「思い込み」から、遅れて横断を開始したBを全く予測せず左折したことにある。

安全指導

① 気の緩みに注意

事故の大半は、運転を開始してから30分以内に発生しています。Aの場合は工場を出発して約2kmの地点、時間にして10分程走行した交差点で事故を起こしました。

長時間運転の疲労による注意力の低下にも十分な警戒が必要ですが、運転開始後間もない時間帯に事故が多発していることも十分に認識し、出発直後から最善の注意を払った運転を心掛けることが必要です。

当時のAは、いつも通り慣れたルートであること、道路が比較的閑散としていたことから、「慣れ」により警戒心が希薄になり、それが事故に繋がったと考えられます。通り慣れたルートで、交通状況を熟知しているつもりでも、交通状況は刻々と変化しています。

いつも通り慣れたルートだからこそ警戒心が薄れ、油断が生じやすいことを自覚し、安全確認を確実にを行うことを習慣づけることが大切です。

② 危険を予測した運転

当時Aは、対向車線からの右折の二輪車に気を取られ、遅れて横断を開始したBを全く予測せず左折してしまいました。

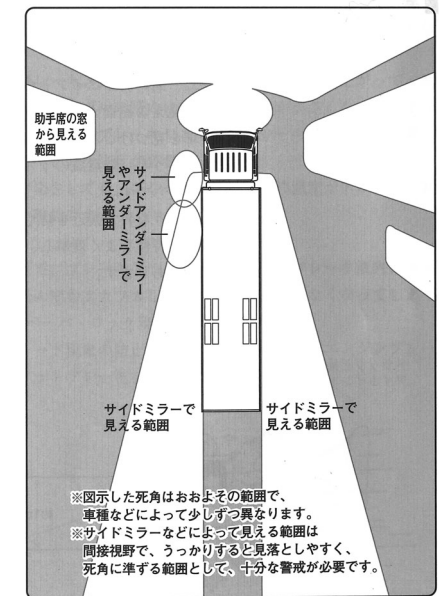
人間の意識は、一方に注意力が集中すれば他方への注意力は疎かになります。つまりAの二輪車への「注意」は、Bを見落とした「不注意」を誘発させたこととなります。

ドライバーが安全を確保するには、いかに広範囲に目配り、気配りを行うかにかかっています。交差点での右左折時の安全確認は、あらゆる危険箇所に注意力を集中して確実にを行うことが大切です。

また、トラックのような大型車は、運転席からもミラーでも見えない「死角」部分が大きく、特に左側方の死角は右側方よりも大きくなっています。

ドライバーは、このような死角をよく認識した上で、「危険を予測した安全確認」を行うことが重要です。

大型トラックの死角



③ 高齢者の行動特性を理解

平成22年の全国の交通事故死者4,863人中、65歳以上の高齢者の死者が2,450人(50.4%)を占めています。また、この内1,228人(50.1%)は歩行中の事故となっています。

高齢者が全死者数の半数を上回っていること、その中で歩行中の死者が半数を占めていることを考えると、高齢者の行動特性を理解することが事故防止をはかる上で重要です。

人間は、加齢により運動能力や判断能力が低下するため、高齢者はしばしば危険な行動をとることがあります。

その特性としては、「車の接近に気がつかない」、「体の動きが鈍く、とっさに危険を回避できない」、「交通ルールに弱い」、「判断力が低下している」、「自己中心的である」、「ドライバーからの保護を期待する」等があげられます。

Aは、事故地点となった交差点に差し掛かったところで、歩道上で信号待ちをしている5、6人の女性を認めており、皆高齢であることが窺えました。

この時点から高齢者の行動特性を考慮し、細心の注意力を傾けていれば、このような事故の発生は防ぐことができたのではないかと思います。

特に歩行者の場合、「車の方で気づいて止まるだろう」と弱者優先の意識が強く、周囲の状況を見ないまま道路を横断し事故になるケースが多いので注意が必要です。